

### 3.4 砂防事業の変遷

姫川における砂防事業の変遷を表 3.1 に示します。

表 3.1 姫川流域における砂防事業の変遷   県の砂防事業   直轄砂防事業  
(信濃川上流直轄砂防百年史編集委員会, 1979; 国土交通省北陸地方整備局, 2016)

和暦(西暦)	砂防事業等の内容
明治 26 年 (1893)	長野県に松川・平川の直轄工事の施工を求めた嘆願書を提出。
大正 4 年 (1915)	耳尾沢が崩壊して甚大な被害をおよぼし、大正 7 年 (1918) まで砂防工事を施工した記録がある。
昭和 7 年 (1932)	農村振興砂防事業により源太郎砂防堰堤に着手した。
昭和 8 年 (1933)	農村振興砂防事業により崩沢砂防堰堤 (高さ 6m、長さ 31m、昭和 27 年 (1952) 流失し復旧) が完成した。
昭和 9 年 (1934)	農村振興砂防事業により支川の十二沢で砂防工事を実施した。
昭和 11 年 (1936)	2 月には太田の地すべりが発生し、災害復旧工事による太田砂防堰堤が完成した。
昭和 14 年 (1939)	通常砂防事業及び災害復旧事業により逐次砂防事業が進められた。
昭和 17 年 (1942)	4 月 1 日姫川砂防事務所が設立 (県内では 5 番目の特設事務所) 松川において、支川の南股川に昭和 17 年 (1942) 着手し、続いて通常砂防、災害復旧事業により工事が進められたが、その後一時中断された。
昭和 26 年 (1951)	砂防事業を再開した。
昭和 32 年 (1957) ～昭和 34 年 (1959)	緊急砂防事業、特殊緊急砂防事業で堰堤 5 基を施工した (姫川東側地域)。
昭和 34 年 (1959)	台風 15 号による特殊緊急砂防事業として 1 基の堰堤を施工した。
昭和 37 年 (1962)	姫川水系にはじめて直轄砂防事業が実施され (年間予算 70,000 千円)、松川の北股第 1 号砂防堰堤工事、南股第 1 号砂防堰堤工事が着手された。 昭和 34 年 (1959) 伊勢湾台風による災害を契機として平川・松川の直轄砂防事業に着手した。
昭和 38 年 (1963)	源太郎砂防堰堤が完成した (当初高さ 5m、長さ 189m であったがその後嵩上げを行ない、完成時には高さ 20m、長さ 235m になった)。
昭和 38 年 (1963)	左支川平川に砂防事業が実施され、平川第 1 号砂防堰堤工事に着手した。
昭和 39 年 (1964)	左支川浦川流域の赤倉山が大崩壊し、土石流が発生し姫川本川を堰止め多大の被害を与える。
昭和 39 年 (1964)	左支川浦川に砂防事業が実施され、浦川第 1 号砂防堰堤工事に着手した。
昭和 40 年 (1965)	上流からの流下土砂扨止のため、小谷温泉地籍に高さ 17m、長さ 90m の元湯砂防堰堤が完成した。
昭和 40 年 (1965)	昭和 39 年 (1964) の風吹岳の大崩壊に伴う土石流と姫川での天然ダム形成による災害を契機として浦川の直轄砂防事業に着手した。
昭和 42 年 (1967)	左支川大所川の赤禿山地すべり性大崩壊により下流沿川に多大の被害を与える。
昭和 44 年 (1969) ～昭和 45 年 (1970)	大櫓川の白馬村細野地籍で流路工を施工した。
昭和 44 年 (1969) ～昭和 48 年 (1973)	戸沢の小谷村大網地籍で流路工を施施工した。
昭和 45 年 (1970)	犬川の白馬村犬川地籍で流路工を施工した。
昭和 45 年 (1970)	左支川大所川に砂防事業が実施され、大所第 1 号砂防堰堤工事が着手された。昭和 42 年 (1967) に、赤禿山の地すべり性大崩壊による土石流災害を契機として大所川の直轄砂防事業に着手した。
昭和 46 年 (1971)	屋城沢の白馬村南神城地籍で流路工を施工した。
昭和 46 年 (1971)	現地混合のコンクリートに変わり、生コンクリートが使用される。
昭和 47 年 (1972)	清水沢の白馬村清水地籍で流路工を施工した。 梶池沢の小谷村梶池地籍で流路工を施工した。

和暦（西暦）	砂防事業等の内容
昭和47年（1972） ～昭和51年（1976）	七滝沢の小谷村下里瀬地籍で流路工を施工した。
昭和48年（1973）	左支川松小支北股の上流に三次元型式の北股上流砂防堰堤（高40m）の本体工事が着工される。
昭和50年（1975）	柵池上工区で流路工を施工した。
昭和50年（1975） ～昭和52年（1977）	鳴沢の白馬村佐野地籍で流路工を施工した。
昭和50年（1975）	左支浦川右小支金山沢に鋼製スリット堰堤の金山沢第1号砂防堰堤、コンクリートスリット堰堤の金山沢第2号砂防堰堤完成する。
昭和51年（1976）	大櫓地籍で流路工を施工した。
昭和51年（1976）	左支川平川の矢崎砂防堰堤下流の平川流路工工事が着工される。
昭和53年（1978）	昭和49年（1974）から着手している高さ15m、長さ79.8mの元湯ダムが完成した。
昭和54年（1979）	地すべり性崩壊による土砂の生産・流出が著しい小滝川において、直轄砂防事業に着手した。
昭和63年（1988）	昭和57年（1982）の台風による災害を契機として根知川流域の中股川を中心に直轄砂防事業に着手した。
平成7年（1995）	7月の豪雨による災害で流域内の至る所で土砂崩壊、地すべりが発生し、人家等に大きな被害が発生した。著しく荒廃した溪流・地すべり等に対し、再度災害を防ぐため、災害関連緊急砂防事業、同地すべり対策、同急傾斜地崩壊対策事業を実施し、緊急に新たな施設を整備した。

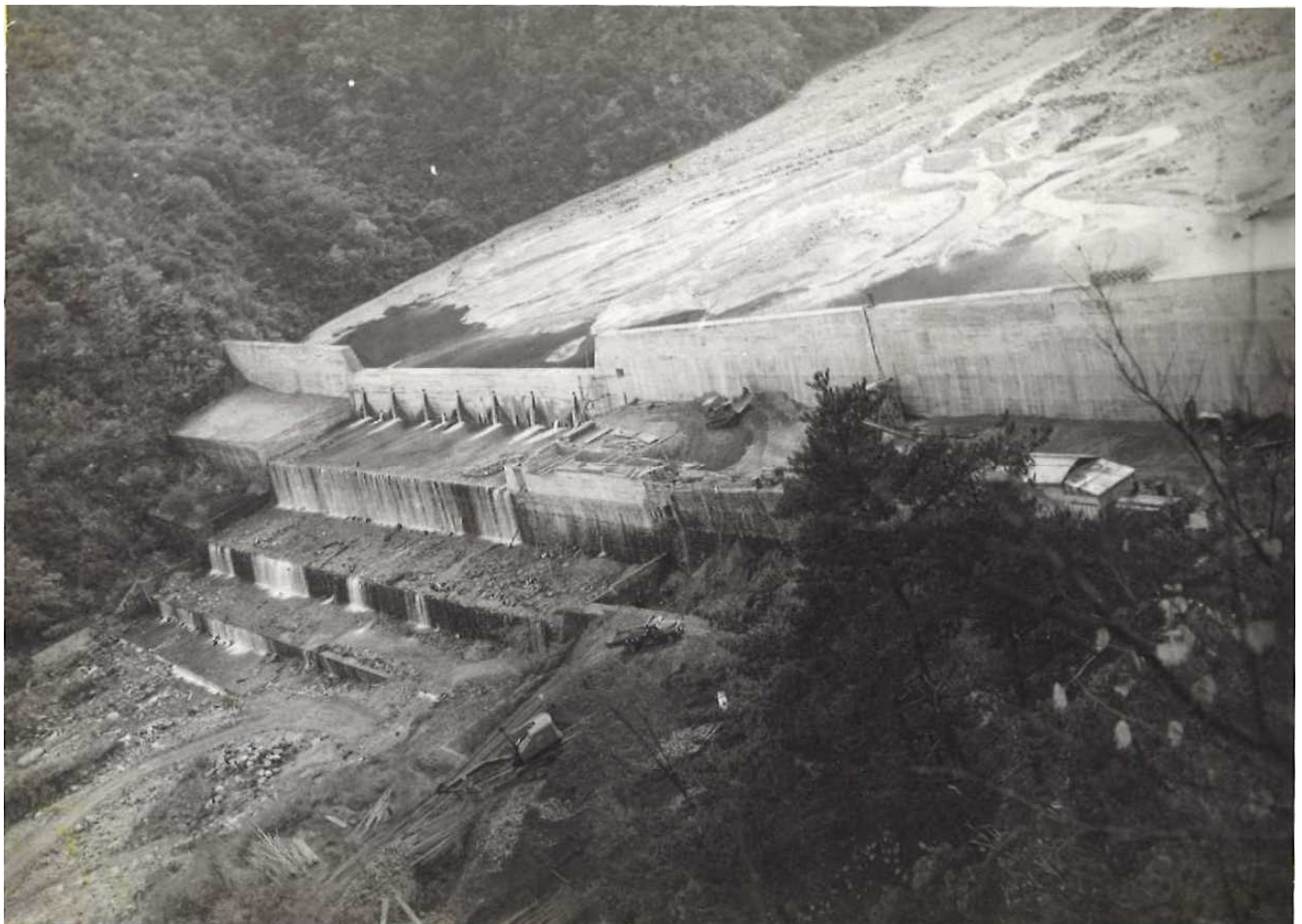


写真3.6 昭和38年の源太郎砂防堰堤

（長野県姫川砂防事務所，1963）